

うまれたてのリポジトリ、ちいさな一歩 東北学院大学 リポジトリ構築・運用事例報告



平成27年2月20日（金）
機関リポジトリ新任担当者研修（東日本会場）
東北学院大学図書部図書情報課（中央図書館） 佐藤 恵

1 | 東北学院大学 概要

- ・ 文系5学部11学科、理工系1学部4学科の総合大学
- ・ 在籍者数（2014年5月1日現在）

| 構成 | | 学生数 | 専任教員数 |
|-------|--|-----------------------------------|-------|
| 【学 部】 | 文学部 英文学科・総合人文学科・歴史学科 経済学部 経済学科・共生社会経済学科 経営学部 経営学科 法学部 法律学科 教養学部 人間科学科・言語文化学科・情報科学科・地域構想学科 工学部 機械知能工学科・電気情報工学科・電子工学科・環境建設工学科 | 11,757 ※うち大学院生：104 前期99/後期5 | 298 |
| 【大学院】 | 文学研究科・経済学研究科・経営学研究科・ 法学研究科・工学研究科・人間情報学研究科 | | |



2 | 東北学院大学 学術情報リポジトリ 概要

[ログイン](#)





東北学院大学学術情報リポジトリ

Tohoku Gakuin University Repository for Academic Information

Information

2015年01月29日 セキュリティ対応のため、1月29日（木）9：30から10分間程度、サービスを停止します。ご理解・ご協力をお願いいたします。^{NEW}

2014年06月18日 リポジトリ登録説明会資料を公開しました。詳しくはインデックスツリーの「リポジトリ説明会資料」を参照ください。

2014年04月01日 本稼働を開始しました！

2014年04月01日 新規コンテンツの登録申請受付を開始しました！詳しくはこちらを参照ください。

2014年03月14日 システムメンテナンスのため、3月20日（木）17：00～24日（月）サービスを停止します。ご理解・ご協力をお願いいたします。

2014年03月10日 テスト運用を開始しました。

Menu

[トップページ](#)

- ▶ [リポジトリ概要](#)
- ▶ [運用規程](#)
- ▶ [コンテンツ登録について](#)

Contents

トップ ランキング

検索

▶ [詳細検索](#) 全文検索 キーワード検索?

| Language | インデックスリスト 学内論集 |
|----------|--|
| 日本語 |  東北学院大学論集, English language & literature [9件]   |
| |  東北学院大学論集, 英語英文学 [5件]   |

インデックスツリー

- ☑ 学内論集
- ☑ 研究所紀要
- ☑ 雑誌掲載論文
リポジトリ説明会資料

Link

検索

- 本学関連リンク
 - ▶ [東北学院大学](#)
 - ▶ [東北学院大学図書館](#)
 - ▶ [東北学院大学教育・研究業績【※PDF】](#)
 - ▶ [東北学院大学 産学連携推進センター | シーズ集](#)
 - ▶ [本学刊行紀要・論集関係目次検索【※本文リンクはありません】](#)
- 論文を検索する
 - ▶ [CiNii Articles - 日本の論文をさがす - 国立情報学研究所](#)

- ・ 2014年4月稼働開始
- ・ 登録アイテム数：245件（学内論集・紀要：171 / 学外刊行物：72 / その他：2）
- ・ 担当職員：2名（図書受入、雑誌、学修支援系業務と兼務）

3 | リポジトリ前史（リポジトリ導入以前の研究成果公開状況）

The screenshot shows the website for Tohoku Gakuin University. At the top left is the university logo and name. A search bar and navigation links for 'English' and 'Chinese' are at the top right. Below this is a horizontal menu with categories like '大学概要', '学部・大学院', '入試・入学案内', '授業・学生生活', '就職支援', '図書館・研究施設', '研究・産学連携', and '国際交流'. The '研究・産学連携' menu item is highlighted. The main content area features a large image of a building interior with a stained glass window. Below the image is a breadcrumb trail: HOME > 研究・産学連携 > 学術誌 > 学術研究会 > 経済学論集 第183号. The page title is '経済学論集 第183号'. A sidebar on the left lists various university activities, with '学術研究会 (紀要、論集)' selected. The main content lists several academic papers under the heading '論文'. A blue callout box at the bottom right contains text about the publication of the journal.

HOME > 研究・産学連携 > 学術誌 > 学術研究会 > 経済学論集 第183号

研究・産学連携

- 社会連携活動
- 教員・研究者
- 学術誌
 - 学術研究会 (紀要、論集)
- 東北学院大学刊行 紀要・論集関係目次検索システム
- 東北学院大学学術情報リポジトリ
- 総合学術誌『農災学』
- 学長研究助成金
- 公的研究費の管理・監査に関する取組
- 知的財産の取り扱い
- 研究施設
- 生涯学習・単位互換
- 産学連携推進センター

経済学論集 第183号

[全ページ](#)

論文

- 幕末・明治初期のアメリカ留学の経済学
～「海舟日記」に見る「忘れられた元日銀総裁」富田鐵之助(2)～
高橋 秀悦
- A Chamberlinian Agglomeration Model with External Economies of Scale
倉田 洋, 野村 良一, 須賀 重仁
- A Wavelet Analysis of Output Fluctuations in the Japanese Economy
舟島 義人

研究ノート

- 明治中期仙台の魚市場移転計画について
仁昌寺 正一

文系学部の論集を
発行機関（学術研究会）のホームページで公開
※著者から公開許諾が得られたもののみ

4 | リポジトリ前史（図書館中長期目標）

2006年3月 図書館中長期計画検討開始

2009年7月 到達目標及び課題のなかに

「リポジトリを開始するための計画の策定」



2010年2月 自己点検・評価報告書（認証評価）における目標

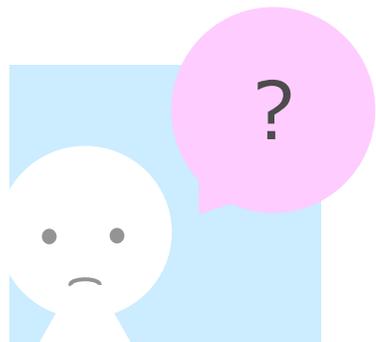
「ハイスリッド・ライブラリー」をめざして、

重点項目

- ・ 電子コンテンツ（電子ジャーナル・データベース・電子書籍）の整備
- ・ 図書館システムの整備
- ・ ICT利用環境の強化
- ・ 地域開放

優先すべき重点項目が多く
リポジトリが消えた…

■ 遡ること 2009年11月



研究成果を発信？

Web上の電子書庫？

国立大学では進んでるよね・・・

資料読むとリポジトリって
WIN-WINなはずなのに
なぜ進まないの？

リポジトリって確か
図書館の中期到達目標に
入ってたよね・・・？

興味はあるけど
おもしろそうだけど

・・・障壁も多そうな
(もやもや)

第11回図書館総合展 デジタルリポジトリ連合 (DRF) フォーラム

第5回DRFワークショップ「2009年、いま改めてリポジトリ」

「これから始める機関のための隣のリポジトリ事情」に参加

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?DRF5>

■リポジトリって…

東北学院「ならでは」な面白い研究を
もっともっと社会に発信したい！

「たのしそう！」

お金やマンパワーの問題はどここの大学でも
抱えているのだし、できない理由は
きっとポジティブに変えることができるはず

■ もちかえる！

図書館だけでできる
ことじゃないよね…

お金はどこから？

サーバー管理できる人、いる？

ICTスキルが…

全文Web公開でもし
何かあったら…？

誰が担当するの？
人置く余裕ないよ

研究成果発信が重要なのは
分かるけど、費用対効果が
イメージできないよね

なんかよくわからないけど
いろいろ不安><。

重要性は認識しているものの
図書館発で動くことに対する不安が渦巻く

2009年-2011年前半 休眠期



図書館長交代

2011年9月 図書館長からの突然の指示により
他大学状況調査開始

2011年10月 図書館改革提案 (図書館長⇒学長)

「東北学院大学図書館の中長期的課題について (4つの課題)」

1.学内学術情報の収集・電子化と学外への発信 (機関リポジトリの構築)

2.学修支援機能の整備と強化 (ラーニングコモンズの構築)

3.利用しやすい図書館環境の整備 (図書館のリニューアル)

4.震災資料の収集・整理

復活!

さらに

2012年3月 全学教授会で報告
教員にリポジトリを認識してもらう

■ 思わぬところから追い風が

全学教授会での報告を聞いた情報システム部長から

以前からリポジトリの構築を考えていて
どこに声を掛ければよいか分からなかったが
図書館かな、と思った



チャンス!

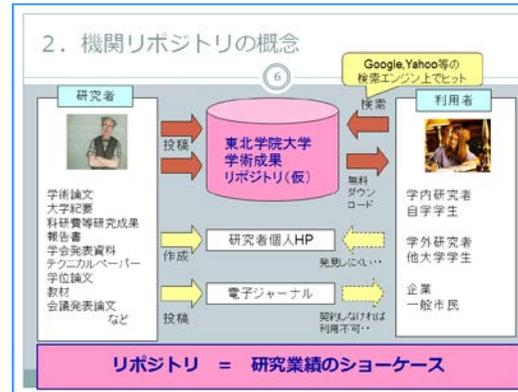
学長室長・情報システム部長・図書館長会談へ
図書館単体ではなく、全学的取組として動き始める



2012年3月：企画書提出

**東北学院大学
機関リポジトリ構築にあたって**

平成25年5月8日
図書館図書情報課



2012年4-7月：他大学状況調査・分析

5. 認証評価における機関リポジトリ導入の必要性

【参考】東北地方私立大学における研究成果（学術論文）インターネット公開状況

| 大学名 | 公開コンテンツ | 公開範囲 | 公開ページ |
|----------------|------------|----------|--|
| 八戸工業大学 | 記事 | 全文 | 自宇HP・CNIi |
| 仙台大学 | 論議・記事・他論 | 全文 | 論議・他論：自宇HP（リポジトリなし） 記事：CNIi |
| 石巻専修大学 | 研究記事 | 全文 | 自宇HP（リポジトリなし）・CNIi |
| 東北学院大学 | 所属研究者の学術論文 | 全文（学内限定） | 自宇HP（リポジトリなし） |
| 東北薬科大学 | 論議・記事 | 全文 | CNIi |
| 石手医科大学 | 研究情報・論議 | 全文 | CNIi |
| 聖賢大学 | 論議 | 全文 | CNIi |
| 仙台総合女子大学 | 記事 | 全文 | CNIi |
| 羽田学園短期大学 | 学術論文；記事 | 全文 | 大学コンソーシアムやまがたによる機関リポジトリ「学術成果共有システムやまがた」や「ゆまキャンパス（リポジトリ）」（京工大はCNIiでも公開） |
| 東北文化学園大学 | 学術論文；論議・記事 | 全文 | 五工大；記事 |
| 東北生活文化大学・短期大学部 | 記事 | 全文 | CNIi |
| 弘前学院大学 | 記事 | 全文 | CNIi |
| 宮城学院女子大学 | 記事・年報・研究報告 | 全文 | 自宇HP（リポジトリなし）・CNIi |
| 盛岡大学 | 記事 | 全文 | CNIi |

7. リポジトリシステムの選定

機関リポジトリ導入におけるシステム・サーバー管理の例

| | 運営スタイル | メリット | デメリット |
|---------------------------|--|--|--|
| 学内でシステム・サーバー管理 | 学内運営型 | メンテナンスのタイミングを自らのスケジュールに合わせて行うことができる | 学内にシステム・サーバー管理スキルを持つ担当者が必要 |
| 業務委託型 (丸善・紀伊國屋書店等) | | <ul style="list-style-type: none"> システム・サーバー管理専門員を置く必要がない メンテナンスに携わることができる メンテナンス登録に集中できる | <ul style="list-style-type: none"> 大規模障害のリスク（バックアップデータを自分で持つておく必要がある） リポジトリ構築後も継続的に保守費用等の支出が必要 |
| 学外でシステム・サーバー管理 (クラウド型) | 共有リポジトリ型 (国立情報学研究所 (NII) JAIRO Cloud) | <ul style="list-style-type: none"> ソフトウェア・ハードウェア・サーバーはNIIが専任で運用 ハードウェア・サーバーは他大学と共有し、管理はNIIが行う システム・サーバー管理専門員を置く必要がない メンテナンスに携わることができる メンテナンス登録に集中できる コミュニティサイトがあり、各大学のリポジトリ担当者・NII職員間でコンテンツ登録に関する相談や情報共有を行うことも可能 | 大規模障害のリスク（バックアップデータを自分で持つておく必要がある） |

7. リポジトリシステムの選定

共有リポジトリの例 JAIRO Cloud

- 国内学術機関研究成果のオープン化（オープンアクセス）推進の理念に基づき、国立情報学研究所（NII）で開発された共有リポジトリ
- 平成24年度より共有リポジトリのシステム環境を提供し、リポジトリ未構築機関に対しリポジトリ構築・運用を支援している
- 2013年6月現在、D-Space等で構築済の複数大学においてデータ移行実証実験中
- ソフトウェア・サーバー利用については当面無償（将来的な可能性あり）**

■さらなる追い風①

2012年4月 共用リポジトリ「JAIRO Cloud」サービス開始

お金はどこから？

ソフトウェア・ハードウェア
サーバーはNIIが当面无償で提供
(当時 ※現在は有償化に向け検討中)

研究成果発信が重要なのは分かるけど、
費用対効果がイメージできない・・・

少なくともリポジトリ導入コストの大部分を
占めるシステム構築・維持管理費用の問題を
クリアできるので、費用対効果は大きくなる
(はず)

Clear!



サーバー管理できる人、
いる？

ソフトウェア・ハードウェア
OS管理・ネットワーク管理は
NIIでサポート

ICTスキルが・・・

マニュアルに従いモジュールを
追加するだけ、画面デザインも簡単
コンテンツ登録も容易

■さらなる追い風②

2012年5月 DRF (デジタルリポジトリ連合) 加入

なんかよくわからないけど
いろいろ不安..

新しいことに踏み出せない
大きな理由は「分からないことすら分からない」不安？



豊富なノウハウを持ったコミュニティに頼ってみることで、
前に進む勇気をもらえる！

Clear!



■さらなる追い風③

2012年7月：「学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について」（文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会）

- ・研究成果のオープンアクセス化に関して積極的に取り組むべき
- ・各大学等が整備を進めている機関リポジトリの活用
- ・機関リポジトリの整備による研究成果の社会への還元が大学等の責務を果たすことにつながる
- ・大学等全体として取り組むべき情報発信機能であることを明確化すべき
- ・**大学等の機関別認証評価等において、機関リポジトリによる情報発信への取組を評価の対象とし、その取組状況を把握・周知することが重要**
- ・**大学等による研究者の個人評価において、業績として情報発信の取組を評価の観点に加えることが重要**

リポジトリでの研究成果発信を、機関別認証評価や大学における研究者の個人評価の対象とすべきことにも言及（オープンアクセス推進と異なる切り口なのは初めて？）

■さらなる追い風④

2013年4月：「学位規則の一部を改正する省令」(平成25年度文部科学省令第5号)施行

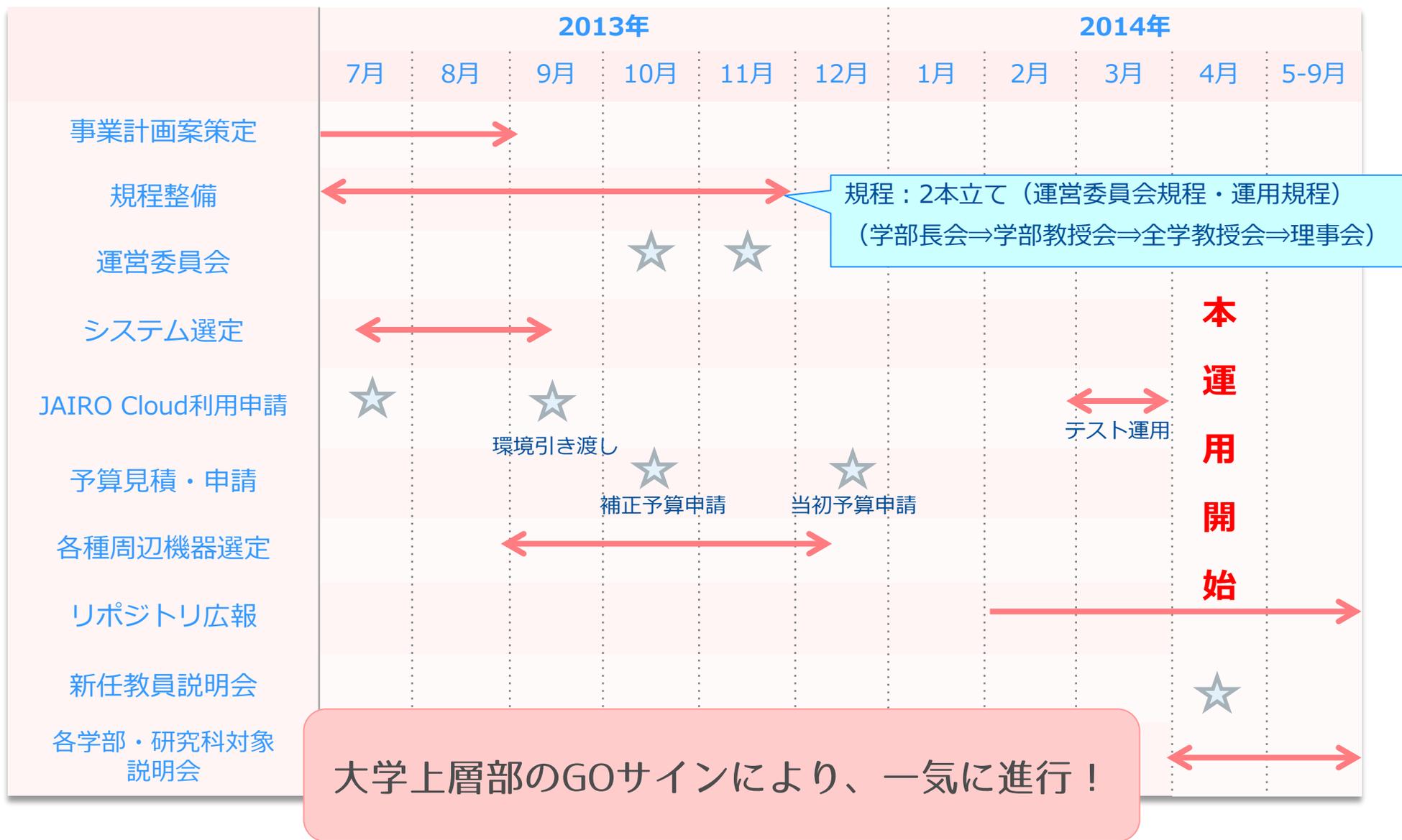
⇒**博士論文のインターネット公表義務化**

- 1) 博士論文の印刷公表に代えて、インターネットを利用して公表する
- 2) 博士論文要旨等についても、インターネットを利用した公表とする

#1)・2)の改正はともに「大学院における教育研究成果の電子化及びオープンアクセス推進」の観点から

#「インターネットの利用による公表」の枠組みとして、学位を授与した大学の機関リポジトリ・共用リポジトリ (JAIRO Cloud)・各大学ホームページの利用を想定

8 | Road to Repository (構築フェーズ)



2014年2月 テスト公開!



【テスト公開用コンテンツ収集】

- ⇒既に大学HPで公開されている論集のコンテンツを対象に、学術研究会経由でリポジトリでの公開を打診
 - ⇒タイトル、著者名入りの公開許諾書を作成、配布
 - ⇒公開に同意する教員のみ図書館へ許諾書を戻す方式
- テスト公開⇒121件（公開依頼257件）

8 | Road to Repository (構築フェーズ)

■ わからないことだらけ、誰にも聞けない・・・

SCIFで一括登録したコンテンツの著者名検索について

いつも大変お世話になっております、東北学院大学中央図書館の佐藤と申します。
登録コンテンツの検索について、質問です。

SCIFで一括登録したコンテンツについて、サイト内で著者名にて検索したのですが
ヒットしないケースが出てきました。

該当コンテンツ

[https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/index.php?](https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=78&pn=1&count=20)

[action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=78&pn=1&count=20](https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=78&pn=1&count=20)

これらをサイト内の検索窓で検索する場合、
「姓名」だとノーヒット、「姓△名」だと全件ヒットします。
(著者(ヨミ)でも同様です)

この場合、セットしたメタデータに問題があるのでしょうか。
ご教示いただけますと幸いです。



孤独な作業のなか、すぐる思いで
JAIRO Cloudコミュニティに
質問すると・・・



答えてくれるひとが！

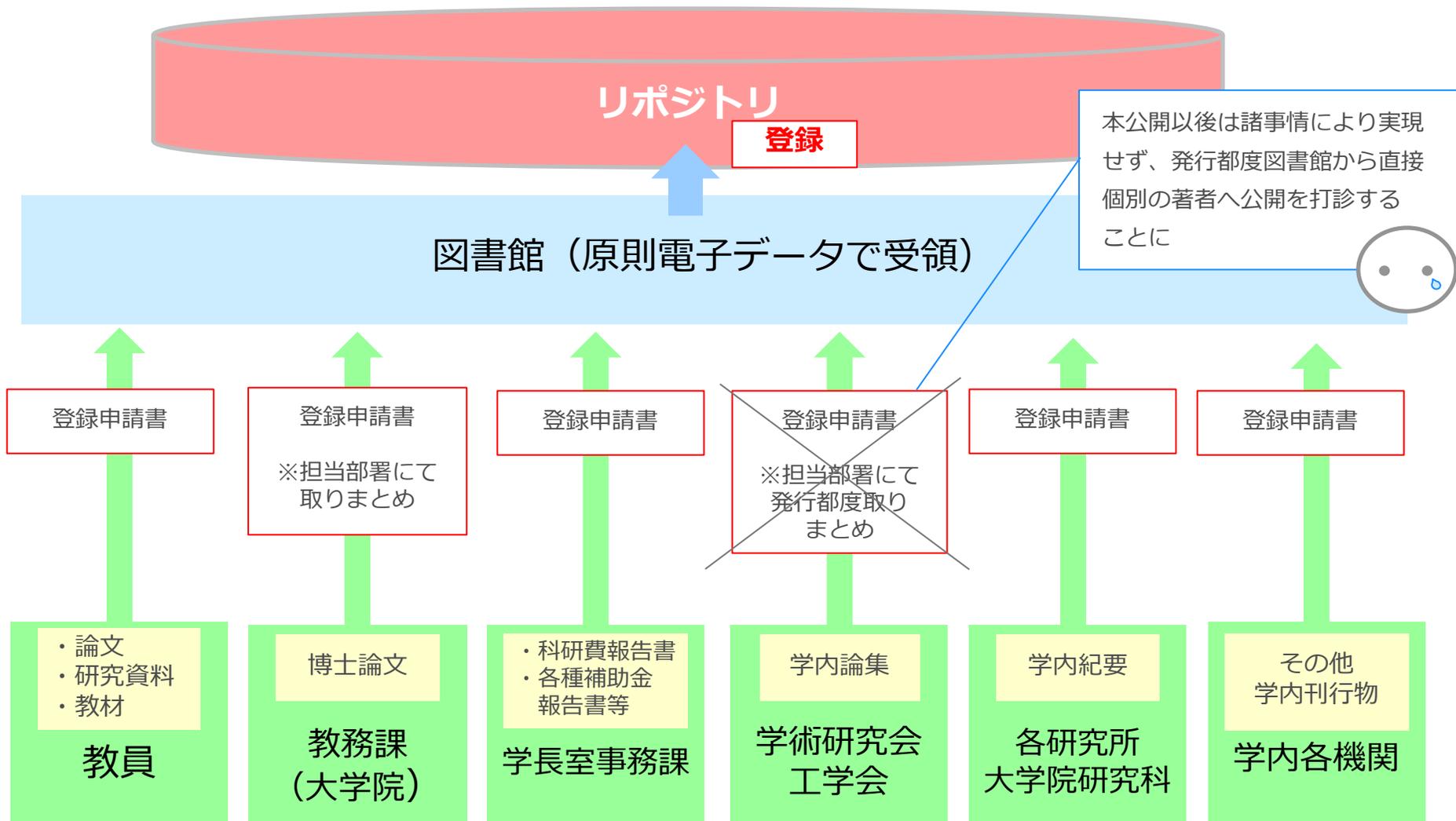
佐藤さま

筑波大学の真中です。
こちらでも同じような現象です。

研究者ご本人からご自分の業績をまとめたいとの要望のときには、
キーワード検索、詳細検索、著者名フィールドで「姓△名」で検索してくださいと伝えていますが、
メタデータには問題がなく、JAIRO Cloudの仕様かと想像します。

JAIRO Cloudでつながる、仲間の存在

■コンテンツ収集体制



■ 人がつなぐリポジトリ

学内論集のコンテンツ自動収集フロー ⇒ ×



しかし・・・

発行担当部署・オープンアクセスに理解のある一部の教員との
新たなつながりができる



学内論集の自動収集フローを、研究所紀要で実現

⇒担当部署（学内論集主管部署でもある）の協力を得て、各研究所の
所長にリポジトリ自動収集案を打診⇒実現へ（一部研究所除く）

■先生、それ公開しましょう！

5. 研究成果をぜひご提供ください！

<コンテンツの受領から公開まで>

1. お手持ちの研究成果について、著作権をご確認いただいた上で、公開許諾書とともに図書館にご提出ください（メールでお送りいただいても構いません）
2. 図書館で登録処理を行います
3. 全世界へ発信！



■ 本公開後の広報【アウェイ突撃編】

教務課へお願いして・・・

- ・ 新任教員研修会でリポジトリ広報（2014.4）

「2015年4月の研修会では話さないの？」と逆に先方から打診をもらうように

- ・ 各学部教授会を行脚してリポジトリ広報（2014.4-9）

先生方には快く受け入れられたが、後日「事務職員が教授会で話すのは前代未聞」と聞かされる（!）

- ・ 学内のFDニュースにリポジトリ広告掲載（これから）

わからない ⇒ 体当たり（怖がらない） ⇒ 結果はついてくる！



■ 本公開後の広報【学内ですかさず営業編】

- ・ 教員と協働する業務（入試、会議等）の空き時間に登録勧誘
- ・ 先生方の研究内容についていろいろ聞いてみる（懐に飛び込む）
⇒ 距離が縮まり、リポジトリやオープンアクセスについての本音も聞き出せる？

- 例)
- ・ 既にオープンアクセスになっているものをわざわざリポジトリで公開する意義がわからない
 - ・ 研究分野の特性（成果発表の形が必ずしも論文とは限らない）もあるし、研究成果の発信はリポジトリよりも他の方法（展示発表など）に重きを置きたい…
 - ・ リポジトリって学内論集紀要に載った論文しか登録できないんでしょう？（←誤解）

「登録に消極的な理由」

担当者が想定しているものと先生方の考えは必ずしも一致しない！

■ やってみて感じたこと

トッスダウンの威力は大きい！

「大学としての取組」である以上、図書館員のボトムアップで始めるのは難しい
⇒ならば！エビデンスをもって上を動かす工夫を！

若い先生方は研究成果発表の場を求めている！

「シェア」することに抵抗のない世代⇒研究成果をオープンに

例：研究業績データベースがない⇒個人サイトを立ち上げ業績や論文を積極的に公開

「先生、そこでリポジトリですよ」

必要性は、必ず理解される

リポジトリ、オープンアクセスの意義については、反対意見をもらったことはない
なぜならド正論であるから

が、しかし。Web公開は怖い、登録が面倒 ← このハードルをいかに下げるか！

10 | 「ならでは」のリポジトリ

- 単なる入れ物ではない、自学「ならでは」のリポジトリを
自学の強み（ならでは）を分析しよう！

ならでは事例1：地域に育まれた大学として 地域に期待されている大学-

- ・ 東北最大規模の私立総合大学
- ・ 入学者のうち97%が東北出身者（平成25年度入試結果より）

研究成果の地域への発信・還元

- ⇒ 地域と共に歩み育てられた大学として課せられた責務
- ⇒ 他大学にはない自学のアイデンティティの確立

ならでは事例2：被災地の大学として

- ・ 特筆すべき震災関連研究活動の発信
- ・ 総合大学ならではの文理双方からの視点による、地方公共団体へ提言
- ・ 研究者・学生の地域貢献活動の発信

本学で生産された「知」の還元による地域の復興サポート

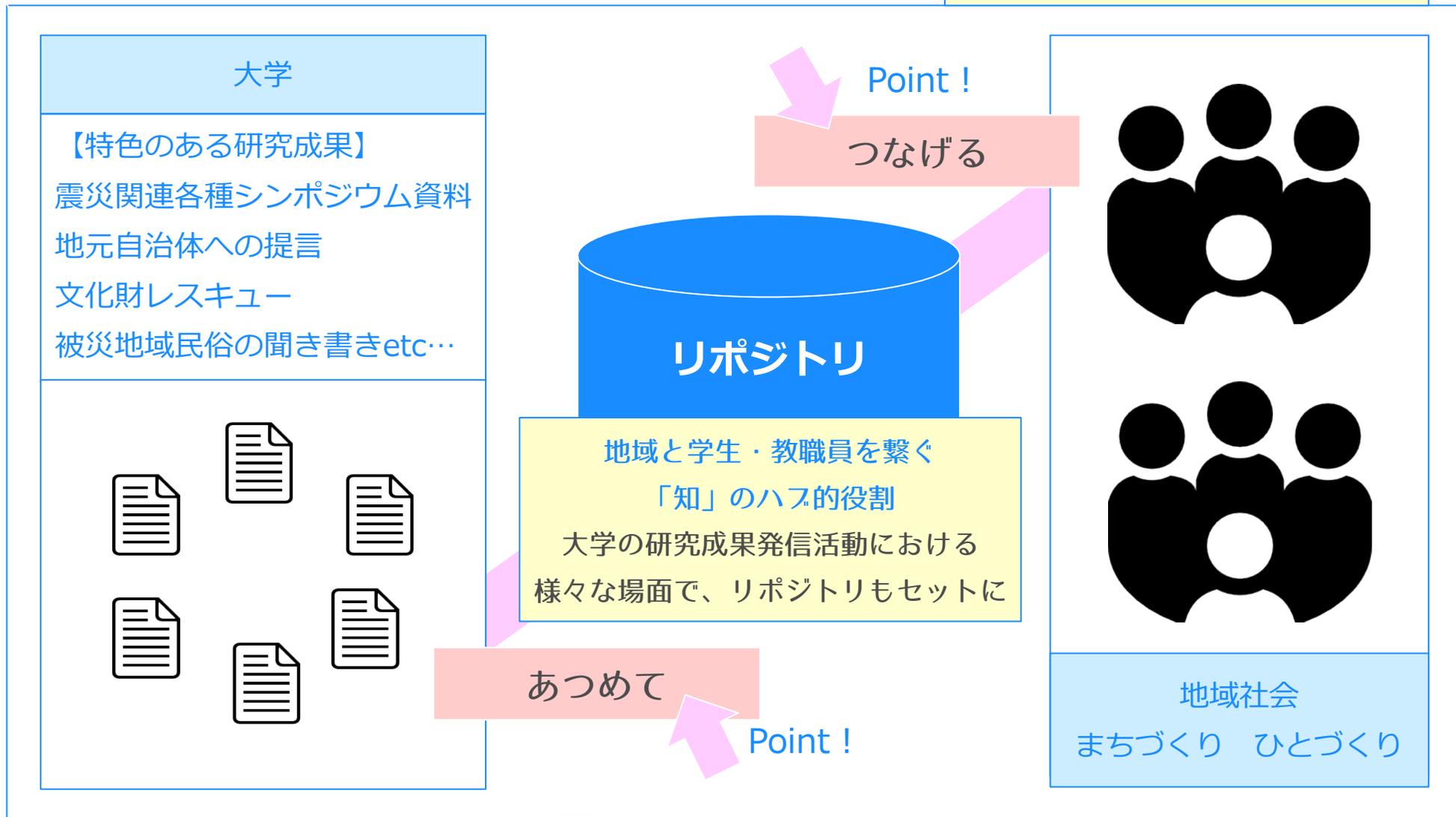
キーワードは「地域共生教育」！



10 | 「ならでは」のリポジトリ

「ならでは」にリポジトリが貢献できることって？

答えは大学の数だけあるはず！



■ 最近うれしかったこと

「本来の研究分野とは少し違う視点でチャレンジした論文を
リポジトリに登録したら、それを見た企業の方から
あたらしい研究のお声掛けをいただいた」

研究成果の可視化UP

検索エンジン上で
研究成果がヒット

研究成果発表の場

新たな研究分野との
繋がりの獲得

リポジトリ登録の
メリットの実現

リポジトリが大学の研究促進・開拓に
貢献していることを実感！



ちいさな一歩、
一緒に頑張りましょう！

